宇都宮市「外国人児童生徒日本語指導事業」の充実について

宇都宮市では、外国人児童生徒に基礎的な日本語を習得させ、学校生活に適応させることを目的とした「外国人児童生徒日本語指導事業」を、平成4年度から実施している。

事業の内容は、国籍を問わず日本語指導が必要な児童生徒に、本市貸与の日本語教材を使用して基礎的な日本語を指導するとともに、学校生活に必要な規則や習慣を理解させる「宇都宮
市日本語指導講師」を、該当する児童生徒が在籍する学校へ派遣するものである。これらの日本語講師は、母語による日本語指導や該当する児童生徒の学校生活への適応指導だけでなく、保護者あての通知文書の翻訳などにも対応している。これらの取組により、日常最低限必要な日本語については、1年間でほとんどの児童生徒が習得し、学校生活の適応が図られる一助となっている。

このような事業は、栃木県内の各市町でも独自に実施しているものであるが、本市では今年度より次の理由などから、本事業を教育委員会重点事業の1つに位置付け、充実を図ることとした。

○日本語指導が必要な児童生徒数の増加等に対応した指導の充実

H17年度当初101人⇒H19年度末159人

○外国人児童生徒の保護者と学校との連携・協力の充実等

今年度は、日本語指導講師派遣回数の増加により、児童生徒の日本語学習時間を増やすとともに、懇談や保護者会等に通訳を派遣し、外国人児童生徒の保護者支援を行うことなどにより事業の充実を図っている。さらに、児童生徒が国籍を問わず共生し、外国人児童生徒が社会的に自立できる教育の推進を目指し、平成21年8月を目途に「（仮称）宇都宮市外国人児童生徒教育推進計画（以下「推進計画」という。）」を策定することとした。

また、これらの取組とともに、平成20年度から文部科学省「帰国・外国人児童生徒受入促進事業」の地域指定を受けたことから、日本語ボランティアの派遣、外国人児童生徒教育拠点校日本語教室担当教員の補助者派遣、来日金もない児童生徒や入学前の幼児を対象とした初期指導教室の設置などを実施し、本市の実態に応じた体制整備の実践研究を行っている。

今後は、推進計画を策定する中で、本市の実態に応じた学校・家庭・地域・企業・行政が有機的につながる制度の構築を目指していきたい。